

大阪希望館主催・地域公開イベント

希望祭～ホッポちゃんと遊ぼう～

2014年1月25日(土) 豊崎東会館



▲鬼のお面作り

地域の子供達が描いた絵 ▶



◀ 段ボール迷路



▼ ペットボトルボーリング



第2回希望祭～ホッポちゃんとタイムスリップ～

2014年3月16日(日) 旧天神橋温泉



▲ホッポちゃんがモチーフの地蔵

昔懐かしい遊び ▶



◀ 懐かしい展示品の数々



▼ 年表や写真



にぎわう喫茶
コーナー



▲駄菓子売場に集まる子供達

フリーペーパー「Hope」(ホープ・エッグ)



創刊号



第2号

大阪希望館の歴史と実績

1、大阪希望館関係史。

活動内容	意味
・2007年 住居喪失不安定就労者調査(厚労省) 若年不安定就労不安定居住者調査(大阪市委託事業)	「ネットカフェ難民」と呼ばれる人々への調査と支援を開始。
・2008年 OSAKA チャレンジネット開設 (住居喪失不安定就労者支援事業＝厚労省委託事業が開始) (相談窓口＝エルおおさかと、アウトリーチと相談後支援＝釜ヶ崎)	「あたらしいホームレス層」の相談窓口を開設し支援体制をつくる。
・2009年 大阪希望館相談センター開設。運営協議会設立	民間団体のネットワークで、行政だけに頼らない支援資源を開設。
・2009年 住居喪失不安定就労者支援事業拡大 (相談窓口の拡大→相談後支援の拡大→釜ヶ崎に加えて大阪希望館でも支援) * チャレンジネットで相談 → 就労に比較的近い若年層は ↓ 大阪希望館でサポート ↓ 就労に距離があり生活支援をベースにする ↓ 必要がある若年層は釜ヶ崎でサポート それ以外の方策が必要な相談者は、 生活保護施設や自立支援センター、提携就労先や提携家主に誘導	(路頭に迷った若者たちに、緊急支援とともにパーソナルサポートで人生の再出発支援をおこなう) チャレンジネット支援体制が完成。 (住居喪失不安定就労者支援事業は、エルおおさか相談窓口＋釜ヶ崎でのサポート＋希望館でのサポートの三角形で確立。)
・2010年 おおよど縁パワーネット活動を開始 (希望館・大淀寮・市大都市研究プラザで、地域貢献活動。大阪市緊急雇用人材育成支援事業を活用)	路頭に迷った若者たちの地域でのインクルージョンと地域セーフティネットづくりへ。 (大阪のまちを大きなセーフティネットに)
・2012年 運営協議会の下に、事務局管轄の事業法人として、一般社団法人大阪希望館を設立登記(縁パワーネットを社団事業に)	地域にねざした団体として、また契約や事業の主体になれる団体として。
・2013年 大阪希望館ステップ就労事業。(住居喪失＝希望館入居者以外の若年困窮者に対しても就労訓練・就労支援をしていく事業)	住居喪失とのボーダー層や地域の困窮者への支援も活動対象に。

2、大阪希望館の特徴

◆まち・地域をセーフティネットにしていくための民間ネットワークであるとともに、行政をふくめた住居喪失不安定就労者(広い意味のホームレス)支援の欠かせない支援資源としてその一角を構成している。

◆家族替わりになって、人生の再出発(路頭に迷う前よりも安定し継続できる仕事と生活をめざす)を生活面からサポートしていく。そのために、緊急の寝場所と生活の支援だけでなく、居住(仮住まい提供と住居確保支援)・就労(中間就労提供と求職活動支援)・メンタル面での総合的な継続支援(パーソナルサポート。卒業後も)をおこなう。

◆当事者を制度にはめ込むのではなく、当事者に合わせた支援を、制度・施策の活用や自前の支援策を組み合わせでおこなう。(支援や施策活用があれば生活保護に頼る必要がない若者には、生活保護に頼らないで再出発していただける支援をおこなう)

◆希望館はチャレンジネットが対象とする大阪府下の住居喪失者も対象にしている。(自立支援センターの対象外になる市外の支援対象者をカバーできる) 希望館は少人数利用と個室をベースにしており、集団生活では精神的に困難な対象者をカバーできる。